

やまとの名品

天理図書館



まつは
松の葉

秀松軒編 5巻5冊

京都 井筒屋庄兵衛等 元禄16年刊

縦 22.7 cm 横 16.5 cm

室町時代末期の永祿年間

(一五五八〜七〇)、中国の三弦という楽器が我が国にもたらされ、琵琶法師達が、その素材や弾き方を改良し、三味線が誕生したといわれている。

既に演奏されていた琵琶にはない華やかな音色は人々を魅了した。扱いやすく、自由に旋律を奏でることができ、また、歌と平行して演奏するのにも適していることから、伴奏楽器としても用いられ、三味線音楽は盛んに行われた。

本書は京都・大坂で発達した地歌をはじめとする三味線歌謡の曲目と歌詞を、当時の伝承に基づいて収録し、五巻

五冊にまとめたもの。第一巻

に三味線組歌二十一曲、第二巻に地歌の長歌五十曲、第三巻に端歌七十三曲、第四巻に吾妻浄瑠璃として、半太夫節、土佐節など二十一曲、第五巻には、「古今百首なげぶし」の詞章等を収める。近世前期における三味線歌謡の一大集成として貴重な資料である。

編者は秀松軒。序文に「于時元禄十あまり癸の未龍集の涼み月、秀松軒の木のもとにかきあつめぬれば、松の葉と名づけぬるもむべなるべし」とあり、書名は編者の名よりちなんだものとわかる。元禄十六年(一七〇三)、京都の井

(第一巻 見返し)



筒屋庄兵衛、万木屋治兵衛によつて刊行された。

掲出書は、その元禄十六年初版本。雲母引紙粉色の表紙に、藍色の刷りで毘沙門格子の地に竜と鳳凰の文様を散らす。第一巻見返しには松と三味線の絵に和歌一首を添える。

(天理図書館 西田裕美)

開館78周年記念展「うたのほん—箏・三味線音楽を中心に—」
会期：10月19日(日)～11月9日(日) 会期中無休・入場無料
午前9時～午後3時半 於 天理図書館展示室
(天理図書館 Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>)